

日本市場に求められる性能を確保 高機能WiFiフォン「MobbyTalk253」

PBXをフレキシブルに開発できるオープンソース「Asterisk」を日本で一早く取り入れ、IPコミュニケーションサーバー「xCube」(クロスキューブ)を製品化したことで注目されたモバイル・テクニカが、高機能WiFiフォン「MobbyTalk253」を発表、ワイヤレスジャパン2007でそのすべてを披露する。最新技術を活かした通信機器の開発で評価の高い同社の製品だけに、旧来のWiFiフォンとは一線を画した品質と性能を実現している。

WiMAXや公衆無線LANのインフラ整備、企業内の電話を含むコミュニケーションインフラのIP化、さらにオフィスの生産性を向上するために導入されるフリーアドレスへの対応など、無線LANの環境はロケーションを選ばない便利なネットワークインフラとして拡がりをみせている。

WiFiフォンはそのような通信環境の進化の中で、携帯電話やPHSのように音声通信のできる専用端末として期待され、海外製品を中心に数年前から日本でも販売されるようになった。しかし、無線LAN環境の整備拡充の速さと比較して、WiFiフォンの普及拡大は進んでいない。

その理由の1つとして、現在販売されているWiFiフォンでは、日本のユーザーが満足のできる品質や性能が確保できていないという点が指摘されている。モバイル・テクニカが、ワイヤレスジャパン2007で展示するWiFiフォン「MobbyTalk253」は品質や性能にこだわる国内のユーザーでも、使ってみてほしいと思わせる製品に仕上げている。

低消費電力で長時間運用が可能

「MobbyTalk253」の特長はいくつかあるが、最初に説明すべき優位点は「低消費電力」を実現したことだ。実測値で待ち受け時間が180時間、連続通話時間300分は、従来のWiFiフォンの倍以上の性能だ。搭載されたデバイスやCPUを細かくパワーマネー

ジメントすることで、これまでになく低消費電力による長時間運用を可能にした。

また、高品位な音声品質を確保するため、ソフトコーデックを採用している。その理由はVoIPでは避けて通れないジッターバッファの制御にある。ワイヤレス環境では制御が非常に難しい「音声品質確保の最適値はどこにあるのか」「ダイナミックにジッターバッファを制御する値を変えてはいけない」などの問題を、環境や端末に合わせた柔軟な処理や実証の繰り返しができる、ソフトコーデックの導入により解決した。

加えて、「MobbyTalk253」ではソフトVPNを搭載、企業の社内LANへダイレクトにアクセスできるようにした。公衆無線LANでアクセスする時などのセキュリティ確保には便利な機能だ。

その他にも、カスタマイズを容易にするGUIによる開発環境の提供やシミュレータ機能の装備、ファームウェアのバージョンアップや電話帳登録を無線を介して行なうメンテナンス機能の搭載など、開発や保守業務にも考慮した機能設計を行なっている。

今後の「MobbyTalk253」に関する事業展開について、モバイル・テクニカの開発営業部マネージャ松倉隆氏は「標準機能であれば『MobbyTalk253』はCPUパワーは30%ぐらいしか使っていません。ブラウザやICタグ対応機能などを組み込む余裕は充分ありま



高機能WiFiフォン「MobbyTalk253」

す。今後ブラウザを含めたさまざまなアプリケーション搭載の準備も進めています」と語った。同社では、このような機能拡張だけではなく、この端末の開発で得たノウハウをモジュール化して販売する、新たな事業展開として検討しており、ワイヤレスジャパン2007出展では「MobbyTalk253」の評価を含め、来場者から事業の可能性について意見を求めたいと考えている。

お問い合わせ先

株式会社モバイル・テクニカ
TEL : 03-5225-1626
050-5519-5666
URL : www.mobiletechnika.jp